

平成 30 年度 1 学期終業式講話

2018.07.25

校長 岩田 学

さて夏休み。

3 年生は、いやでも自分の現実に向けて逞しく歩み出す時。逃げるわけにはいきません。目標を実現するための道筋をはっきりさせ、学習計画をしっかりと立てて、一日一日、自分を乗り越えていく。未来は今日という日の積み重ねであり、その積み重ねた量が質を生み出します。ここでいう質とは、合格の事です。受験勉強は国立型 6 科目で押し通すこと。多くの科目をやったことで、自分の進路選択の可能性が広がります。進学も就職も同じです。

2 年生・1 年生にとっては、未来は遠くにある目標・ゴールと映るでしょうが、やはり今日という日の積み重ねでしかありません。今できることは、実は今しかできないこと。あとで後悔しないようしっかりと取り組んで行きたいものです。

日本の夏は祈りの季節。

8 月は原爆、終戦、そしてお盆の月。日本は戦争で多くの命を失いました。個人的な話で恐縮ですが、母親の話をします。私の母は 12 年前亡くなりました。生きていれば 88 歳。

私が子供のころから、「我が家には財産も土地も無いが、だからこそしっかりと勉強するんだよ。」というのが母の口癖でした。高校 3 年生になると、「大学入試は一回だけ。落ちたら就職、浪人はダメ。」と言われていました。当時は「一浪」（一年間予備校などで受験勉強をすること）をヒトナミと読むような、大学への志願倍率が非常に高い時代でした。私は、一度だけ、うちは両親や家族も健康なのに、なぜ大学進学を制限されるのかという思いを母にぶつけたことがあります。母は、はっきり言いました。

「自分の将来は自分で切り開くもの。チャンスは皆に平等に巡り来るが、あなたが、そのチャンスを掴める人間かどうかは最初の一回で決まるものだよ。ついこの間まで、私たちの時代には、たった一度のチャンスさえ、戦争に根こそぎ奪われるのが普通だったのだから。」

両親の世代が少なくなるにつれ、戦争の記憶、復興への努力が忘れられていくようで心配になります。今の日本の繁栄は、先人たちの苦勞・犠牲の上にあるという自覚も大切です。だからこそ、修学旅行で、唯一の国内での戦場「沖縄」を訪れ、当時を知る人々から直接話を聞くという貴重な体験が一層大切になっているのです。是非、その勉強もしてください。

2 学期の始業式には、より逞しく成長したあなたに出会うことを楽しみにしています。